

maxell

テレビ用 お手元スピーカー

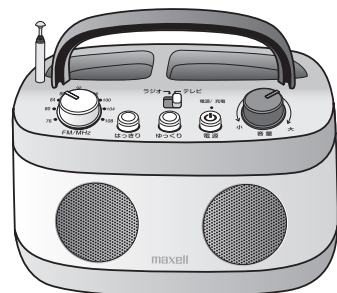
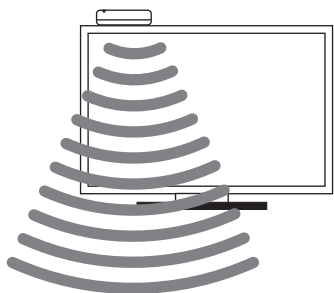
- みみもとの寄り友 -

MXSP-TV200

取扱説明書

もくじ

安全上のご注意(必ずお守りください).....	2~3
使用上のご注意.....	4
伝送距離について.....	5
梱包品の確認.....	6
各部の名称とはたらき.....	7~9
ゆっくりボタンとはっきりボタン.....	10~11
送信機をテレビに接続する.....	12~13
受信機を充電する.....	14
使い方	
テレビを見るとき.....	15~17
ラジオを聞くととき.....	18~20
外部入力端子・ヘッドホン端子の使い方.....	20
故障かな?と思ったら.....	21
製品を廃棄するときのお願い.....	22
主な仕様.....	23






お買い上げいただきまことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。




この取扱説明書は大切に保管してください。

- ご使用前に「安全上のご注意(必ずお守りください)」を必ずお読みください。
- この取扱説明書の裏面は保証書となっています。必ず保管してください。


安全上のご注意(必ずお守りください)

 危険	「誤った取り扱いをすると人が死亡または重傷 ^{*1} を負うことがあり、かつ、その度合いが高いこと」を示します。
 警告	「誤った取り扱いをすると人が死亡する。または重傷を負う可能性があること」を示します。
 注意	「誤った取り扱いをすると人が軽傷 ^{*2} を負う可能性または物的損害 ^{*3} が発生する可能性があること」を示します。


- *1：重傷とは、失明やけが、やけど、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院や長期の通院を要するものを示します。
- *2：軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電を示します。
- *3：物的損害とは、家屋、家財および家畜、ペットに係わる拡大損害を指します。



絵表示 の例		△記号は製品の取り扱いにおいて、発火、破裂、高温等に対する注意を喚起するものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。
		○記号は製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止するものです。具体的な禁止内容は図記号の中や近くに絵や文章で示しています。
		●記号は製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制するものです。具体的な強制内容は図記号の中や近くに絵や文章で示しています。

危険






 禁止	本製品内部からもれた液体にはさわらないでください。また目に入ったときは、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診察を受けてください。失明の原因となるおそれがあります。
---	--

警告

 禁止	本製品を医療機器の近くで使用しないでください。電波が心臓ペースメーカーや医療機器に影響を与えるおそれがあります。
	指定された電源電圧以外で使用しないでください。火災や感電の原因となります。
	本体およびACアダプタを電子レンジなどの加熱調理機や高圧容器に入れないでください。発熱、破裂、発火などの原因となります。
	本体およびACアダプタを濡らさないでください。火災や感電の原因となります。
	製品の内部に水や異物を入れないでください。火災や感電の原因となります。
	充電端子部をショートさせないでください。火災や故障の原因となります。
	ACアダプタのケーブルは伸ばして使用し、釘などで固定したり、束ねたりした状態で使用しないでください。過熱による火災やけがの原因となります。
ACアダプタのケーブルの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしないでください。断線や故障の原因となります。	
本体およびACアダプタを布などで覆った状態で使用しないでください。発熱や発火などの原因となります。	
火のそばや直射日光の当たる場所など、異常に温度が高くなる場所での使用や保管、放置をしないでください。機器の変形、発熱、発火の原因となることがあります。	

 分解禁止	分解、改造をしないでください。火災や感電の原因となります。
 強制	使用中や充電中、保管時に異臭、発熱、変色、変形などを感じたときは直ちに使用を中止してください。そのまま使用すると発熱、発火などの原因となります。
	付属のACアダプタ以外は使用しないでください。機器の発熱や発火、故障の原因となります。
	コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不十分のまま使用すると、感電や火災、けがの原因となります。 アンテナを目や顔に近づけないでください。けがの原因となります。

⚠ 注 意

 禁止	ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。落下して故障の原因となります。
	湿気やほこりの多い場所、高温になる場所には設置や保管をしないでください。故障の原因となります。
	濡れた手でACアダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となります。 耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞くと、聴力に影響を与えることがあります。音量を上げすぎないように注意してください。 ICカードやキャッシュカードなど磁気弱いものを近づけないでください。記録が消えたり、壊れたりすることがあります。
 強制	乳幼児の手の届かない場所に保管してください。けがの原因となります。
 指示	ACアダプタをコンセントから抜くときは、必ずACアダプタの本体を持って抜いてください。コード部分を持って抜くと、コードの破損や火災、感電の原因となります。
	電源プラグの刃および刃の取り付け面についたほこりなどは乾いた布などで定期的に拭き取ってください。電源プラグ部の絶縁低下によって、火災の原因となります。 本製品を長期間使用しない場合でも、受信機は1か月に一度を目安に充電を行ってください。
 医師と相談	心臓ペースメーカーなどの医療機器をお使いの方は、本製品のご使用にあたって医師とよく相談してください。
 プラグを抜く	機器を移動させる場合は必ずACアダプタをコンセントから抜いてください。コードの傷つきやけが、火災、感電の原因となります。
	お手入れの際や長期間使用しない時はACアダプタをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電や漏電火災の原因となります。

使用上のご注意

ワイヤレス機器について

本製品は2.4GHzの周波数帯域を使用します。この周波数帯域を使用するほかの機器との電波干渉を避けるために、下記事項をお読みのうえ、ご使用ください。

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許が必要)、特定小電力無線局(免許が不要)、およびアマチュア無線局(免許が必要)が運用されています。

1. 本製品を使用される前に、近くで他の無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 本製品の使用により、万一、他の無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合には、速やかに電波の送信を停止し、電波干渉を避けてください。
3. その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合やご不明な点がございましたら、「お客様ご相談センター」までお問い合わせください。

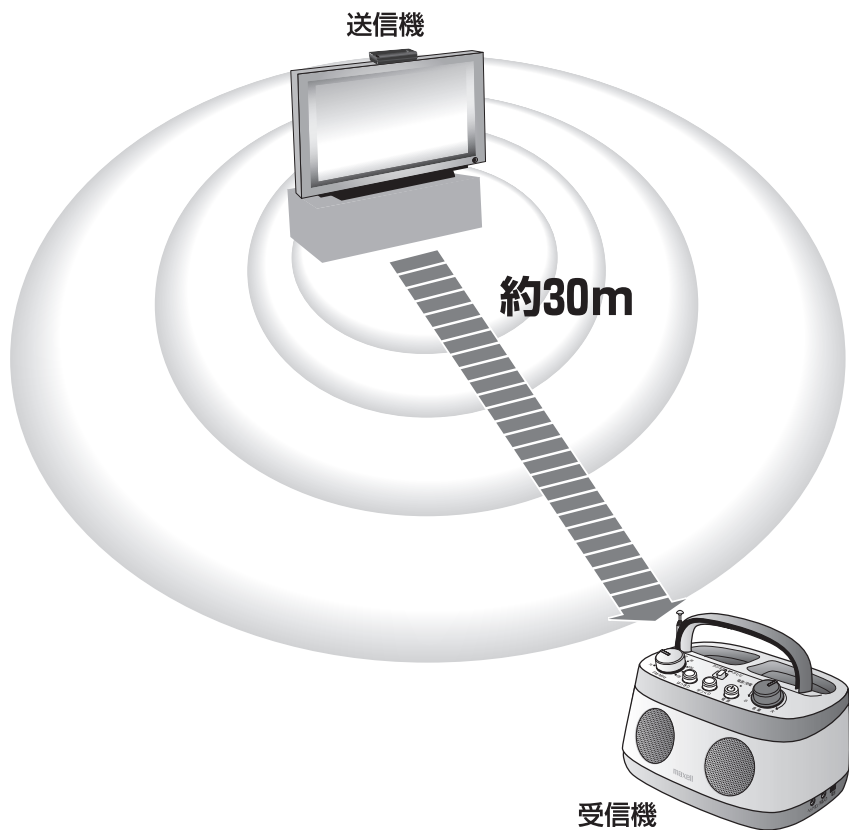
- ・ 本製品は日本国内でのみご使用いただけます。
- ・ 本製品は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています。無線局の免許は必要ありません。
- ・ 以下の行為は法律で禁じられています
 - 一 分解や改造を行う
 - 一 本体に貼付の技術適合証明ラベルをはがす
- ・ 他の機器との影響
 - 電子レンジ、デジタルコードレス電話、無線LANを使用する機器、Bluetooth搭載機器など、本製品と同じ2.4GHz帯の電波を使用する機器の影響によって音声がかぎれることがあります。同様に、本製品の電波がこれらの機器に影響を与える可能性があるため、干渉しあう機器同士は離して設置してください。
- ・ 伝送距離について
 - 本製品は送信機に接続した機器の音声を受信機に無線伝送します。伝送可能な距離は、見通しが良い場所で送信機から約30m※です。
 - ※送信機からの伝送可能な距離は周囲の環境や建物の構造などによって変化します。送信機と受信機の上に壁や金属の扉など、電波を遮るものがあると伝送距離は短くなります。また、送信機は電波を反射する壁の近くや、電波を放射しにくいスチールラックの中などを避けて設置してください。

2.4FH3

この無線機器は2.4GHz帯を使用します。

変調方式としてFHSS変調方式を採用し、干渉距離は30mです。

伝送距離について

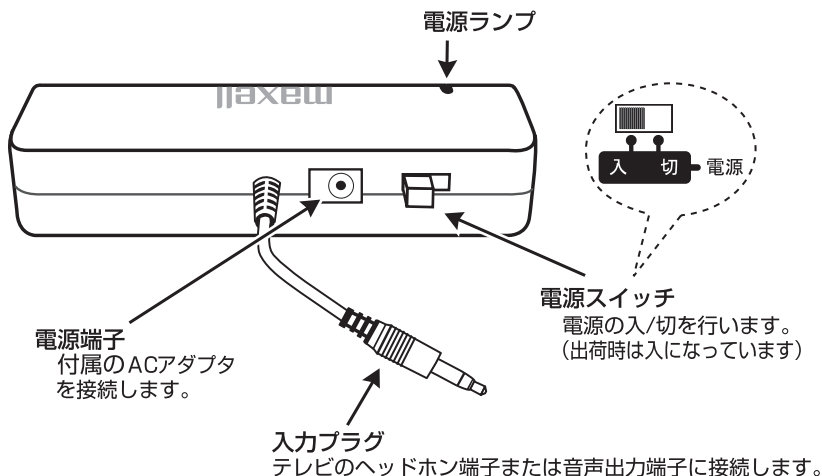


※送信機から伝送可能な距離は、周囲の環境や建物の構造などによって変化します。送信機と受信機の間、壁や金属の扉など、電波をさえぎるものがあると伝送距離は短くなります。送信機および受信機は、電波をさえぎる壁の近くや、スチールラックの中などをさけて設置してください。

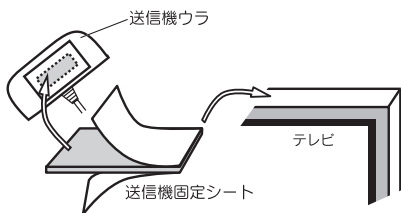
各部の名称とはたらき

送信機

テレビ端子に接続し、テレビ音声を受信機に送信します。



送信機を固定する場合



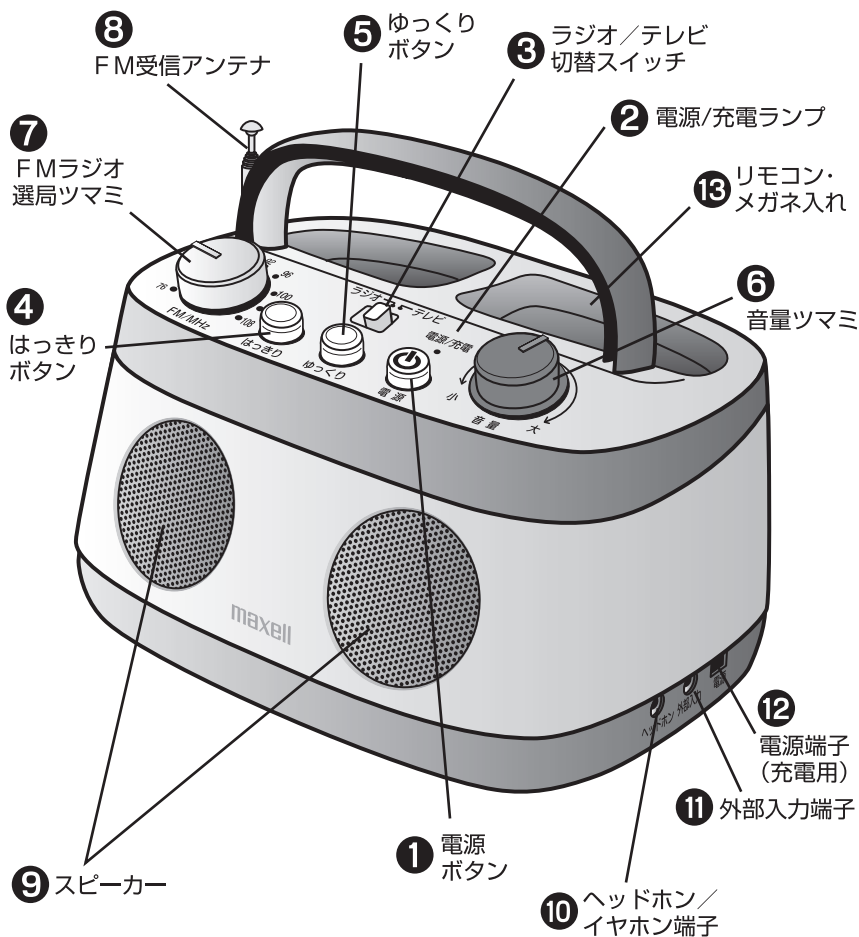
付属の送信機固定シートを使用して、テレビ台などの上に貼り付けることもできます。

※貼り付ける場合は、ホコリ等を落としてから貼り付けてください。

※接着力が強いので、はかす際、塗装面などを傷める場合があります。

各部の名称とはたらき

受信機



各部の名称とはたらき

- ①電源ボタン
…電源の入/切をします。

- ②電源／充電ランプ
…電源が入ると緑色、充電中は赤色に点灯します。

- ③ラジオ／テレビ切替スイッチ
…「FMラジオ」と「テレビ音声」を切り替えます。

- ④はっきりボタン
……はっきり機能の入／切をします。

- ⑤ゆっくりボタン
……ゆっくり機能の入／切をします。

- ⑥音量ツマミ
……音量を調節します。

- ⑦FMラジオ選局ツマミ
……FMラジオの周波数を調整します。

- ⑧FM受信アンテナ
……FMラジオの電波を受信します。

- ⑨スピーカー
……ここから音が聞こえます。

- ⑩ヘッドホン／イヤホン端子
……ステレオイヤホンを接続します。

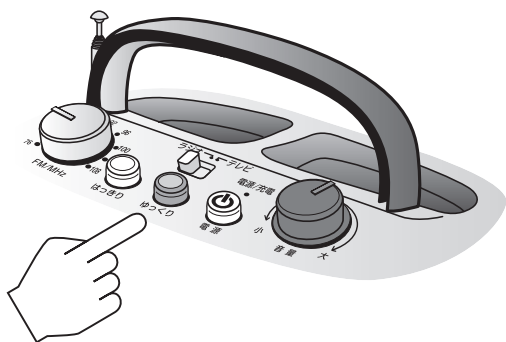
- ⑪外部入力端子
……カセットプレイヤーなど外部機器と接続します。

- ⑫電源端子(充電用)
……付属のACアダプタを接続します。

- ⑬リモコン・メガネ入れ
……リモコンやメガネなどの小物を収納します。

ゆっくりボタンについて

音声や高さを変える
ことなく速度を
遅くして聞き取り
やすくします。

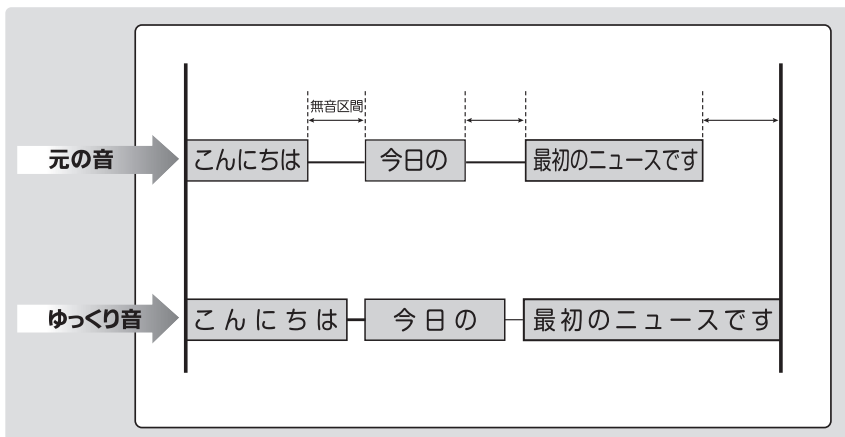


通常の会話には言葉と言葉の間に「間」が存在します。
「間」とは音がない「無音区間」です。

ゆっくりボタンを押すと

言葉の部分は長くのばすので「ゆっくり」聞こえます。

※無音区間のない音楽やBGMのある音声では「ゆっくり音」は機能しません。

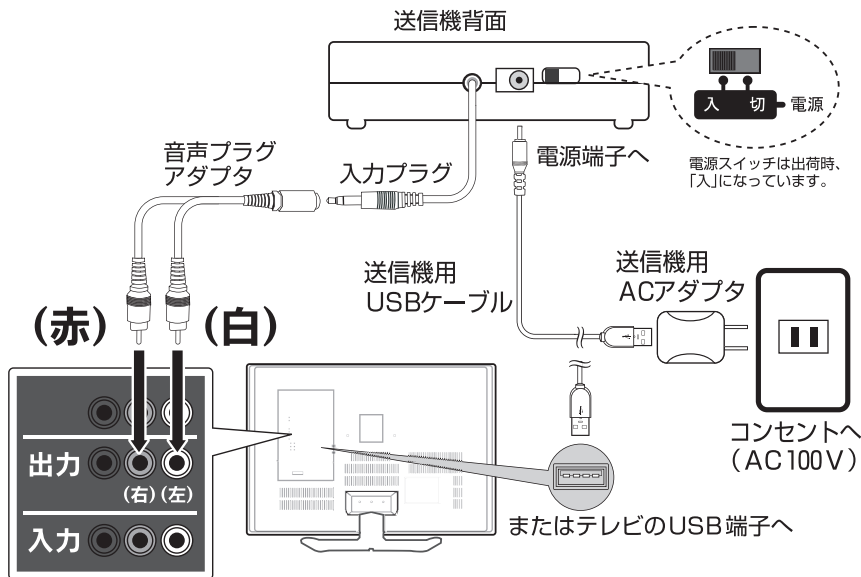


送信機をテレビに接続する

テレビとの接続には2通りの方法があります。

テレビ背面の出力端子に接続する場合

本機とテレビ本体の音声が一緒に聞こえます。



テレビ音声出力端子

※出力端子の表記や位置はテレビによって異なります。(モニター出力、音声出力など)

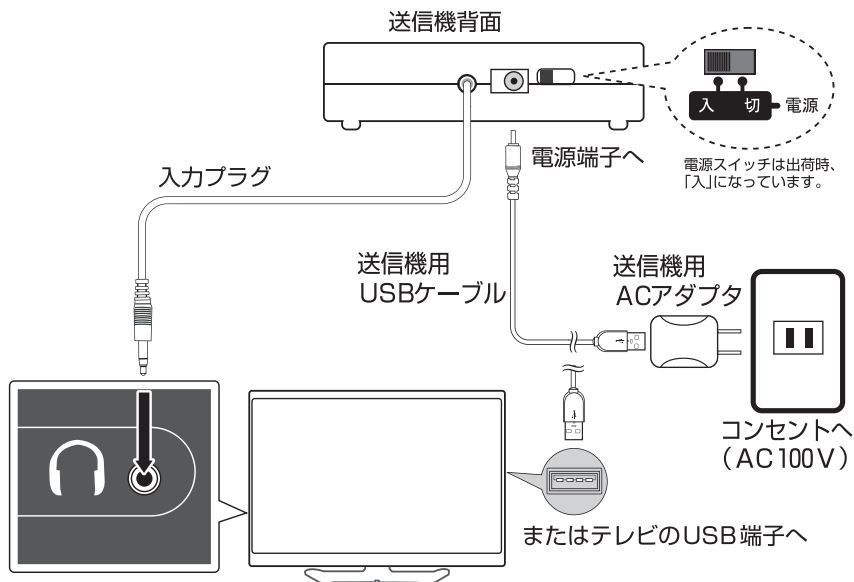
- ①送信機の入力プラグに付属の音声プラグアダプタを接続し、テレビ背面の出力端子(右・左)に接続します。
 - ②送信機用USBケーブルを送信機の電源端子と送信機用ACアダプタまたはテレビのUSB端子に差し込みます。
- ※テレビの機種によっては出力端子と入力端子が兼用されている場合があります。その場合はテレビ側の設定を「出力(固定)」にしてください。

変更方法につきましては「接続と設定変更マニュアル(別紙)」をご覧ください。当社「お客様ご相談センター」にお問い合わせください。

送信機をテレビに接続する

テレビのヘッドホン端子に接続する場合

テレビ本体の音声は消えて本機の音声だけが聞こえます。



ヘッドホン端子

※ヘッドホン端子の位置はテレビによって異なります。

- ①入力プラグをテレビのヘッドホン端子に接続します。
- ②送信機用USBケーブルを送信機の電源端子と送信機用ACアダプタまたはテレビのUSB端子に差し込みます。

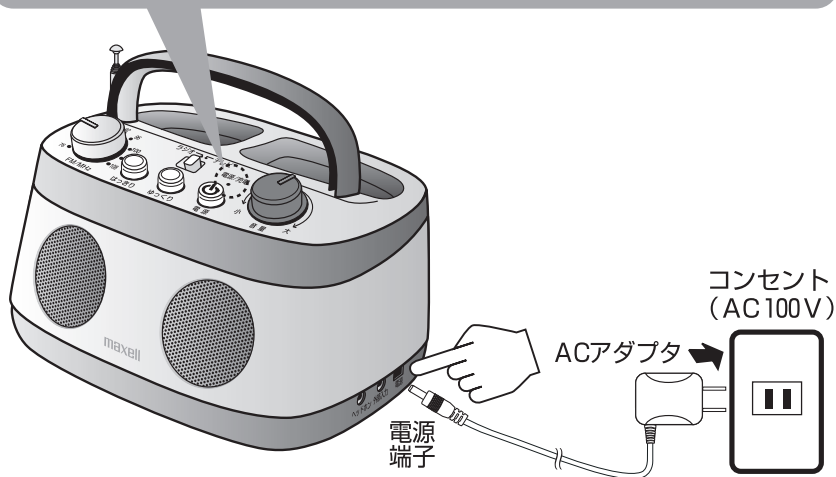
※テレビ側の設定によりヘッドホン端子接続時にテレビ側のスピーカーからも音声を出すことができます。

変更方法につきましては「接続と設定変更マニュアル(別紙)」をご覧ください。当社「お客様ご相談センター」にお問い合わせください。

受信機を充電する

受信機を充電します。

ここが赤く光ると充電しているしるしです。満充電になるとランプは消えます。



ご注意

充電時は電源ボタンを「切」の状態にしてください。

※電源が入ったままでは十分に充電されません。

※満充電になったらACアダプタは外して使用してください。

満充電時 連続約15時間使用できます

※その他の使用状況(気温、音量等)により使用時間は変わります。

こんな時は充電してください

電池残量が減ってくると、LEDランプが赤く点滅し、警告音(10秒ごとに「ピピッ」という音)でお知らせしますので充電を行ってください。

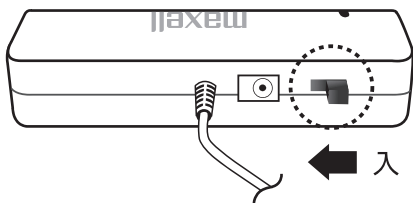
そのまま放置すると約3分後に自動的に電源が切れます。(過放電保護のため)

使い方【テレビを見るとき】

①テレビの電源を入れます。



②送信機の電源スイッチを「入」にします。



送信中



電源が入り、送信が始まると電源ランプは緑色に点滅後、点灯します。

緑色に点滅後、点灯。

★注意



入力プラグに音声信号が無いと約30秒後に赤点灯に変わります。

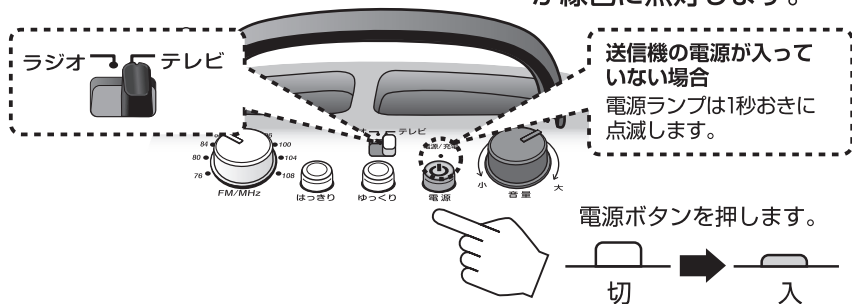
※テレビの電源が入っているか、正しく接続されているか確認してください。

赤色に点灯。

使い方【テレビを見るとき】

③ラジオ/テレビ切換スイッチをテレビ側に合わせます。

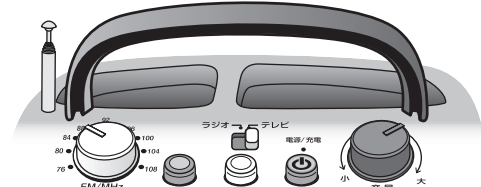
④受信機の電源を入れます。電源が入ると電源ランプが緑色に点灯します。



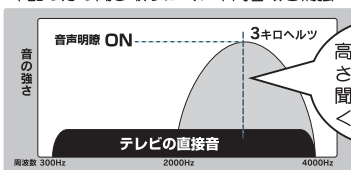
⑤音量ツマミで音量を調節します。

*送信機をテレビのヘッドホン端子に接続している場合、受信機の音量を「大」の方向にまわしても音量があまり大きくならない場合があります。その時はテレビ本体の音量を上げてください。

★テレビの音が聞き取りにくい場合



年配の方の聞き取りにくい中高音域を補強

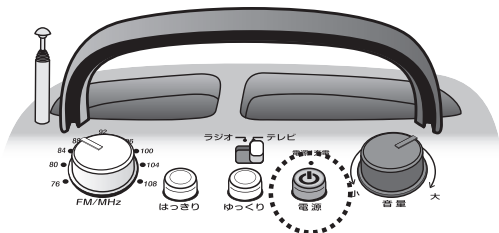


高音部が強調され、言葉が聞き取りやすくなります。

使い方【テレビを見るとき】

⑥使用後は受信機の電源を切ります。

電源/充電ランプ
が消灯します。



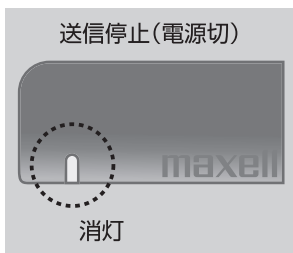
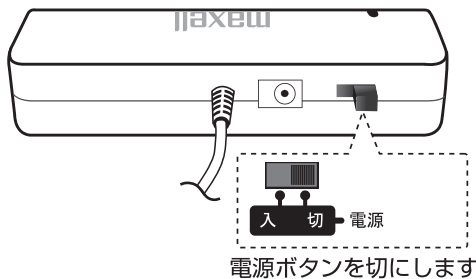
電源ボタンを切にします



★電源を切り忘れても送信機からの送信が止まると約10分後自動的に電源が切れます。再度使用する場合は、電源ボタンを入れ直してください。

⑦使用後は送信機の電源を「切」にします。

電源が切れると電源ランプは消灯します。



★送信機の電源を切らなくてもテレビ本体の電源を切ると自動的に「待機状態」になります。(送信機の入力プラグに音声信号がない場合)



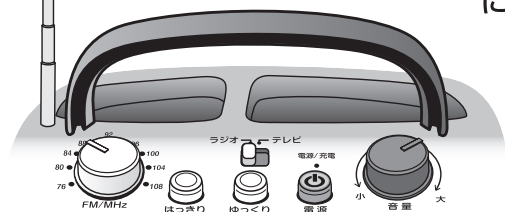
★再びテレビ本体の電源を入れると自動的に送信が開始されます。

使い方【ラジオを聞くととき】

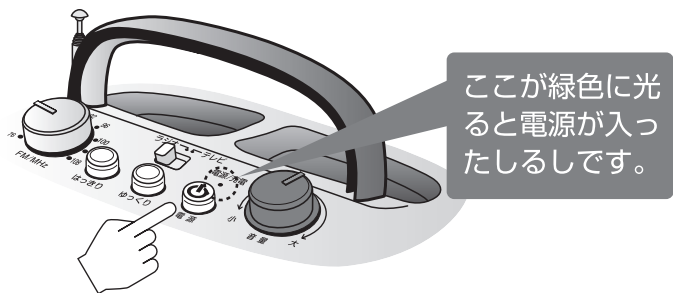
※送信機は使用しません

↑ ①アンテナをのぼす。

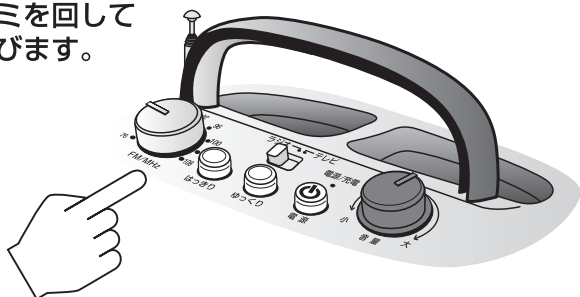
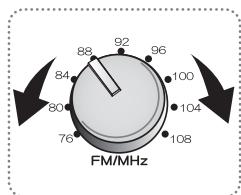
②受信機の「ラジオ/テレビ」の切替スイッチを「ラジオ」側にします。



③電源を入れます。



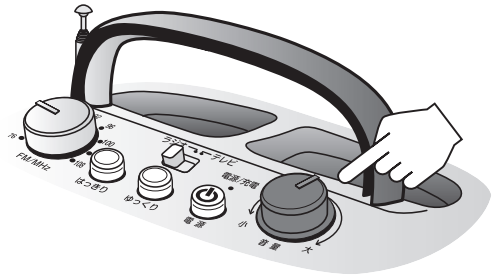
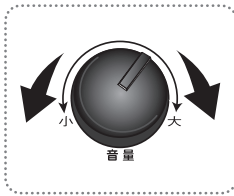
④FMラジオ選局ツマミを回して聞きたい放送局を選びます。



ご使用の際の注意点

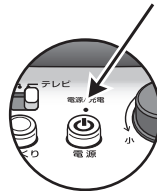
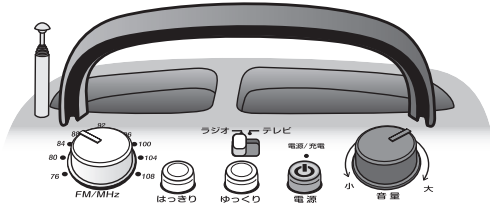
- ・受信感が弱いときは受信機本体の位置を変えてください。
- ・窓際に置くと受信しやすくなります。
- ・車やビルの中などでは受信しにくくなります。
- ・本体を金属製の机などに近づけると、受信状態が悪くなる場合があります。
- ・他の家電製品からの雑音によって、受信状態が悪くなる場合があります。

⑤音量ツマミで音量を調節します。



⑥使用後は受信機の電源を切ります。

電源/充電ランプ
消灯します。



電源ボタンを切にします



テレビ・ラジオの音が聞き取りにくいと思う方へ

「ゆっくり」ボタンを押してください。

速度を遅くすると、聞き取りやすくなります。

P10参照



「はっきり」ボタンを押してください。

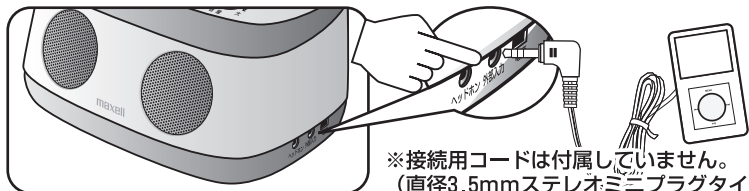
聞き取りにくい音域(2~4キロヘルツ)がアップしてさらに聞き取りやすくなります。

P11参照



外部入力を使って聞く場合

AV機器の音声を外部入力端子に接続して聞くことができます。「ゆっくり」「はっきり」モードで聞くこともできます。

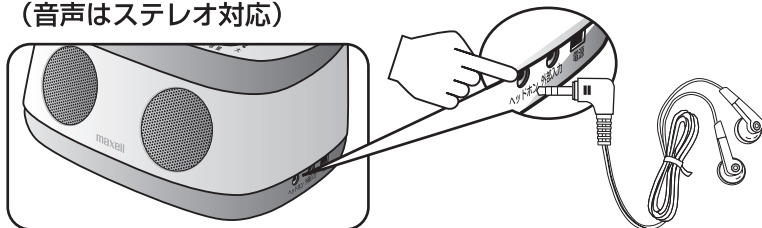


※接続用コードは付属していません。
(直径3.5mmステレオミニプラグタイプ)

★外部入力端子を使用する場合はラジオ/テレビ切替スイッチをラジオ側に合わせてください。
(テレビ側に合わせて使用すると約10分後、自動的に電源が切れます。)

ヘッドホンを使って聞く場合

ヘッドホン端子に市販の直径3.5mmステレオヘッドホンを接続します。
(音声はステレオ対応)



故障かな?と思ったら

テレビ音声を聞くとき		
症状	原因	対処のしかた
音が出ない	送信機または受信機の電源が入っていない	送信機または受信機の電源を入れる (⇒P15、P16)
	送信機が正しく接続されていない (入力端子に接続している)	送信機の入力プラグをテレビの音声出力端子もしくはヘッドホン端子に接続する (⇒P12、P13)
	テレビのヘッドホン端子からの入力信号が最小になっている	接続したテレビの音量を上げる (⇒P16)
	受信機の充電が不足している	受信機を充電する (⇒P14)
	受信機の音量が下がっている	受信機の音量を上げる (⇒P16)
	鉄筋・サッシなど電波を遮るものが近くにある	金属部分から離れた位置で使用する
	送信機と受信機の距離が遠い	送信機と受信機を近づける (⇒P5)
音がひずむ 雑音が多い 音がとぎれる	受信機の充電が不足している	受信機を充電する (⇒P14)
	テレビのヘッドホン端子からの入力信号が小さい/大きい	接続したテレビの音量を上げる/下げる (⇒P16)
	周囲に2.4GHz帯の電波を使用している機器がある(無線LAN、Bluetooth、電子レンジ等)	2.4GHz帯の電波を使用する機器から離して使用する (⇒P4、P5)

FMラジオを聞くとき		
症状	原因	対処のしかた
受信できない	電波が弱い	建物の中などではなるべく窓際に置いて使用する
	チューニングが合っていない	FMラジオ選局ツマミで周波数を調整する (⇒P18)
	切替スイッチが「ラジオ」になっていない	切替スイッチを「ラジオ」側にする (⇒P18)
音がひずむ 雑音が多い	受信機の充電が不足している	受信機を充電する (⇒P14)
	他の機器の影響を受けている(パソコン、電子レンジ等)	受信機を他の機器から離す (⇒P4)

製品を廃棄するときのお願い

⚠ 危険

取り出したリチウムイオン電池は充電や以下のことをしない。(発熱・発火・破裂の原因)

- 火への投入、加熱をしない。
- くぎで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない。⊕ と ⊖ を金属などで接触させない。
- ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しない。
- 火のそばや炎天下など高温の場所で放置しない。

⚠ 警告

取り出したリチウムイオン電池は乳幼児の手の届くところに置かない。

万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師に相談する。

リチウムイオン電池の液が漏れたときは、素手で触れずに以下の処置をする。

- 液が目に入ったときは、目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと医師に相談する。
- 液が体や衣服に付いたときは、きれいな水で十分洗い流したあと医師に相談する。

製品を廃棄するとき以外は分解しない。(火災・感電・けがの原因)

この製品には、リチウムイオン電池を使用しております。リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。ご使用済み製品の廃棄に際しては、リチウムイオン電池を取りはずして製品をお買い求めのお店、またはリチウムイオン電池のリサイクル協力店へお持ちいただき、リサイクルへご協力をお願いいたします。

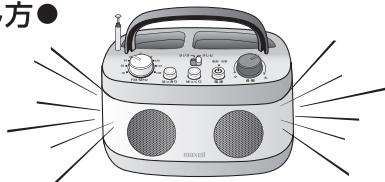


リサイクル協力店の詳細は、一般社団法人
JBRCのホームページをご参照ください。
<http://www.jbrc.com>

リチウムイオン電池以外にも、リサイクル可能な部品が含まれています。リチウムイオン電池以外の部品の廃棄につきましては、お住まいの地域の条例などに従って処理してください。

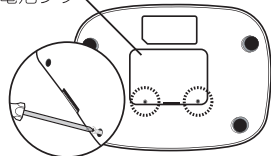
●リチウムイオン電池の取りはずし方●

- ①製品が完全に動かなくなるまで使用し
リチウムイオン電池を放電させる。



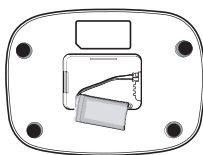
- ②電池のフタを開ける

電池フタ



※プラスのドライ
バーで2箇所ネ
ジを外します。

- ③古い電池をはずす



※電池を持ち上げ
その下にあるプ
ラグを抜いて取
り外してください。

主な仕様

●送信機

変調方式	: FHSS方式
送信周波数帯	: 2.4GHz帯
到達距離	: 約30m
電源	: DC5.0V (付属のACアダプタを使用)
入力端子	: 直径3.5mmステレオミニプラグ
外形寸法	: 幅80mm×奥行30mm×高さ15mm
質量	: 約30g

●受信機

受信周波数帯	: 2.4GHz帯
FM受信周波数	: 76~108MHz
電源	: 内蔵リチウムイオン充電電池
電源端子(充電)	: DC5.0V(付属のACアダプタを使用)
連続使用時間	: 最大約15時間
充電時間	: 約3.5時間
スピーカー	: 直径50mm×2
実用最大出力	: 1.3W+1.3W(ACアダプタ使用時) : 1.0W+1.0W(充電電池使用時)
ヘッドホン端子	: 直径3.5mmステレオミニジャック
外部入力端子	: 直径3.5mmステレオミニジャック
外形寸法	: 幅190mm×奥行140mm×高さ136mm
質量	: 約540g

●同梱品

送信機用ACアダプタ1
受信機用ACアダプタ1
送信機用USBケーブル1
音声プラグアダプタ1
送信機固定シート1
取扱説明書(保証書付)1

